

静岡県労福協より 若者とNPO「つながる仲間ミーティング」

中央労福協では2022年静岡、2023年愛媛の2か年にわたり、「若者を知る」「若者とつながる」をテーマとして全国研究集会を開催した。今回はこれに関連して、実際に地域のNPOとつながって活動を展開する若者たちの実践事例として、静岡県労福協の取り組みを紹介する。

静岡県では、中間支援NPO※に協力いただき、地区労福協とNPOが協力し合う「幸せを支えあう社会の実現プロジェクト」を実施している。その第一ステップとして、福祉事業団体とNPO等がお互いに知り合う「つながる仲間ミーティング」を2021年度からスタートしている。役員だけが活動に参加するのではなく、各地区の労福協構成員が、NPO等と個人で一緒に活動できることを最終目標にしており、いくつかの中間支援NPOに取り組み方のコーディネートなどをお願いし、県内複数個所で活動を進めている。

今回は、**島田榛北地区労福協の「若者の会」**というおおむね30代くらいまでの若者が活動する会と、中間支援NPOとの取り組みを紹介する。

まず若者の会のメンバーにNPOについて知ってもらい、活動についての思いを共有した。その後、活動の計画を作るワークショップを実施し計画を進めた。

若者を引きつけるため工夫した点は、①地域や暮らしをよくするための活動ということを理解してもらうこと、②言われて活動するのではなく、自分ごとに落とし込んで地域について考えてもらうことを重視し、中間支援NPOにワークショップなどの組み立てを依頼した。若者が「地



中間支援NPOのイベント「子どもわくワーク」で、自分たちが考えたプログラムの説明をする若者の会のメンバー



ワークショップの様子

域」に対して普段から思い入れを持つことはあまりないだろうと想像できるため、まず一人一人が地域に対して自然に思いを及ぼせるように、「わたし発の思い」という言葉をキーワードに、自分事の事柄（自分の得意・好きなこと）を地域とクロスさせた。次に最初から地域について考えさせるのではなく、まずは自身のことを洗い出し、それを地域に反映させるという手法を取り入れた。その結果、中間支援NPOが行う既存の小学生向けイベントで、プログラムの一部を若者の会が企画実践する形で地域子どもたちと触れ合うことができ、「若者の会」が主体的に企画し実践したことで、地域について自ら考え触れる機会を持てた。これはメンバーにとって新鮮であったといえる。また、若者の会メンバーが自ら主体的に地域の活動を実践したことで、NPOや市民活動団体と同じ目線に立ち、苦労や喜びを体感することができた。実践することで感じたことが、今後の様々な活動に関わる際の経験値として役立つと考える。今後は地域の課題に興味を持ち、発見できるプロジェクトにつながっていければと思う。

県労福協としては、「なぜNPOと活動しなければならないのか」について理解を得ることなど苦労も多いが、労働組合・労福協活動の今後の在り方を考えるよい機会の提供となる。この活動を通し、自治体との新たなつながり（選挙に関する若い人の意見を聞きたいと、自治体から「若者の会」へ協力を要請された）が生まれる等予想していなかった広がりも出ている。今後も緩やかにこの活動を続けていきたい。

※注 行政からの受託事業として市民活動センターなどを運営し、地元のNPO等の活動の相談役を担っている、地域の核となるNPO